

金城学院大学らしい地域連携をめざして

本学と岐阜県富加町が 包括的連携協定を締結



「ちょうどいいまち」をキャッチフレーズに、次世代に向けたまちづくりを進める岐阜県富加町と、教育・研究を通して若者や女性の活躍を支援する本学が、2023年7月、包括的連携協定を締結しました。

本学が自治体と包括協定を結ぶのは、守山区、尾張旭市に次いで3例目。本学の長谷川直樹教授（生活環境学部）が富加町の総合計画や総合戦略のアドバイザーを務める縁で実現したもので、「まちづくり」「子育て支援・地域福祉」「産業・観光の振興とPR」「教育・文化・スポーツの振興教育」「人材育成」の5点を柱に、多様な分野で、継続的な連携を推進していきます。



町役場の人々と意見交換する学生たち

本学の知的資源や人材を 次世代に向けたまちづくりに。

2023年7月3日、本学生活環境学部長谷川直樹教授の研究とプロジェクトの成果として、岐阜県富加町と本学の包括的連携協力に関する協定を締結させていただきました。長谷川教授の指導のもと、富加町の次世代に向けたまちづくりに本学学生たちの協力を期待していただけることは嬉しい限りです。

本学は、学院として135年の歴史と、女子総合大学として75年の歴史を刻んでまいりました。その教育の理念は、「キリスト教の精神に基づく女性への全人教育」です。強さと優しさをもって隣人のために働く女性を育成しております。その教育の経験と取り組みを期待していただき、魅力ある未来の社会づくりに本学を役立てていただけたらと願います。

めまぐるしく変化する社会のなかで、若者の視点やアイデアには、日々驚かされることばかりです。長谷川教授と学生たちの持てる力と魅力が存分に用いられますよう、そして活力あるまちづくりがより一層深められますよう願ってやみません。

金城学院大学学長 小室尚子



若者や女性の視点を活かした 魅力あるまちづくりに大いに期待。

富加町は、岐阜県の中南部にある人口約5,800人の小さな町。金城学院大学のある名古屋市守山区から北へ約40km、車で1時間程の位置にあります。2015年から貴校の長谷川直樹教授（当時は名城大学大学院兼任講師）に地方創生アドバイザーとしてご指導いただいたご縁で、人口増加対策で次世代に向けたまちづくりをめざす本町と、女子総合大学として若者や女性活躍を支援する貴校が連携し、まちづくりを推進してはとのありがたいご提案をいただき、包括連携協定を締結しました。

その後、学生による町内各所の訪問や貴校学生へのアンケート調査を実施し、『総合計画の分析提案』や『若者にとっての魅力ある富加づくり提案』をまとめ、町職員への発表と意見交換等を実施していただき、大変実りあるものとなりました。現在も、町の魅力発見ツアー、町特産品開発への協力など、若者の視点を活かした様々な取り組みを展開。今後も、次期町総合計画の策定、貴校の強みである英語教育等での連携も計画しており、大きな期待をしているところです。この小さな田舎のまちが貴校学生の学びの場となり、それが当町のまちづくりに繋がるよい関係のもとで、協力連携をより深めていきたいと考えています。

岐阜県富加町町長 板津徳次
(2024年5月時点)



富加町プロジェクトの | 活 | 動 | 報 | 告 |

富加町の 若者定住促進案を 卒業研究で提案

協定締結後の第1弾として、長谷川ゼミの学生2人（2023年度卒業）が定住

政策を卒業研究の題材にして、若者や女性の定住政策を提案。本年度の4年生2人がその政策を実現するための具体的な施策の検討・立案に取り組んでいます。

魅力発掘フィールドワーク

生活環境学部環境デザイン学科の2・3年生19名が富加町のフィールドワークを実施。町内では5班に分かれて道の駅や松井酒造場などを視察し、その後、若者



にとって魅力あるまちづくりについて、町役場の人々と意見交換を行いました。

とみぱんTシャツ プロジェクト

環境デザイン学科アパレル・ファッションコース2年生の有志9名が、富加町の公式マスコットキャラクターとみぱんのTシャツとポロシャツのデザインに取り組みました。2024年夏の販売をめざして、現在試作を重ねています。



富加町マスコットキャラクター とみぱん



(写真左から) 石川瑞穂さん、長谷川直樹先生、磯山留愛さん

学生や町職員と手を携え
多様な分野での連携・協力を進めたい。

生活環境学部環境デザイン学科教授 長谷川直樹

私が地方創生のアドバイザーを務めるようになった10年ほど前の富加町は、若者の流出や高齢化の進行など、日本が抱えている課題の縮図のような町で、2014年に日本創成会議が公表した「消滅可能性都市」に位置づけられていました。危機感を抱いた町は人口増加対策を推進する施策を様々に進め、その結果、近年では県内有数の人口増加率を達成。2024年4月、人口戦略会議より公表されたレポートでは、消滅可能性自治体からの脱却を果たしています。

次のステップとして、現在は増加した人口の維持・継続を図るとともに、若者や女性にとって魅力があるまちづくりを進め、次世代に向けた「住みたい・住み続けたいまち」をめざしています。本学と包括的地域連携を結んだのもその一環で、『互いの尊厳を認め、互いを生かしあえる愛に基づく社会をつくる。』を大学の存在意義と位置づけ、長年にわたって若者や女性の活躍を支援している本学が協力することで、解決できる地域課題はたくさんあると思っています。包括協定を結んで

まだ数ヶ月ですが、すでに複数のプロジェクトが並行して進められています。今年度も多くの学生が各プロジェクトに参加しています。学生たちが地域に出向き、地域の課題解決やまちづくりに継続的に取り組むことが、地域の人々がわが町の魅力を再発見し、よりよいまちづくりを進める原動力にもなっています。本学教職員の皆様のご協力により、今後も幅広い分野での連携・協力を推し進め、町の活性化、魅力づくりを全力でお手伝いしていきたいと思っています。



女子総合大学の
役割を活かした
地域連携で
持続可能で活力ある
まちづくりを
実現したい。



先輩の卒業研究を引き継ぎ、
若者の定住を促進する具体的施策を
提案したい。

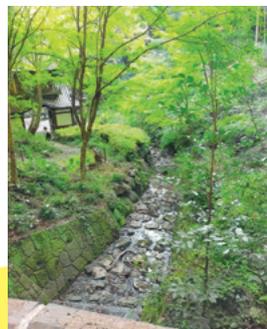
石川瑞穂さん (生活環境学部環境デザイン学科4年)

昨年の富加町の魅力発見ツアーに参加して、「いろいろなまちがあって、いろいろな暮らしがあるんだな」ということを実感し、まちづくりって面白いなと思ったのが「富加町プロジェクト」を卒業研究のテーマにしようと思ったきっかけです。先輩方の卒業研究を引き継ぎ、さらに発展させていくというのですが、先輩方が残した論文には学生100人に実施したアンケート結果があり、「田舎に住みたい」、「自然のあるところに住みたい」という回答が多数ありました。そこに着目して考えたのが景観条例の作成。町の魅力でもある富加町の自然を守るための施策を具体的に提案していきたいと思っています。

富加町プロジェクトで企画力・実践力を養い、
将来はまちづくりに携わりたい。

磯山留愛さん (生活環境学部環境デザイン学科4年)

私には夢があります。それは卒業したら地元の公務員、あるいは地元企業に就職して、自分が生まれ育った地域(知多郡阿久比町)をもっと魅力的な町にする活動に取り組んでいきたいということ。「富加町プロジェクト」に参加したのも、地域のリアルな課題に取り組むことで、まちづくりの実践的なスキルが養えると思ったからです。阿久比町はすごく田舎なんですけど、良さもたくさんあるという点で、富加町に似ているなと感じています。現在取り組んでいる卒業研究でも、豊かな自然や山あいの風景など、今ある富加町の魅力を活かした施策を提案し、町の活性化につなげていきたいと考えています。



特産品開発事業 試食会に参加

本学食環境栄養学科3年生7名が、富加町の農産物であるイチゴ、黒米、かぼちゃを原材料にした特産品の試作品試食会に参加。学生は食のコンサルタント 山口香代子さんの考案したスイーツなど5品を試食し、若者・女性の視点から意見を交わしました。



食材を無駄なく使い切る 「エコレシピ」を考案

家庭から排出される生ごみの削減をめざし、本学食環境栄養学科の学生が食材を無駄なく使い切る「エコレシピ」を考案。第一弾として、「ブロッコリーの芯のきんぴら」を提案。今後も継続してエコレシピを提案していく予定です。



今後の 活動計画

- 1 富加町の魅力化に関する卒業論文の取組みの継続
- 2 「とみぱん」グッズの共同開発
- 3 食と健康に関する総合的支援
- 4 小学校の英語教育を支援

